

研究科設置の経緯と教育理念

現在、人口減少・超少子高齢社会対策や健康生活格差の是正が求められており、その根底には、様々な健康生活課題が存在します。

健康生活課題の克服において、看護学は、「新生児から高齢者まで人間の発達段階にある全ての人や家族、地域、それぞれ固有の健康問題の理解やその援助、もしくは健康の維持、増進について研究する学問」であり、主に心身の健康面からアプローチを行っています。また、社会福祉学は、「乳幼児、児童、少年、障害者、女性、高齢者、経済的困窮者などに代表される社会的弱者の福祉の増進と権利の擁護、及びそのための援助の方法、技術、また行政政策、福祉を考えた社会的な基盤と構造を考える学問」であり、主に生活上の課題に視点を置いています。一方で、現在社会では、健康と生活上の課題は互いに密に作用し影響し合って複雑化・多様化し、複合化しています。

そこで、保健・医療を担う看護学専攻と福祉を担う社会福祉学専攻が融合した、「健康生活科学」という学問領域を新たに立ち上げ、「Well-being（健康と幸福）に向けた共生社会」を目指す、福井県立大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程を令和5年4月に開設いたしました。

【理念・目的】

健康生活科学研究科（博士後期課程）は健康生活科学専攻からなります。「健康生活科学」は、保健・医療を担う看護学専攻と福祉を担う社会福祉学専攻が融合した学問領域であり、「Well-being（ウェルビーイング）の向上を探究する学問」です。看護学も社会福祉学も「ウェルビーイング」を達成するためには必要不可欠な学問ではありますが、さらに両者を融合させることで、健康から生活までの課題を連続的に捉え課題解決を図ることができます。

「健康生活科学」の研究対象は、看護学、社会福祉学、健康基礎科学、医学、公衆衛生学などを基盤として、保健・医療・福祉が連携し予防・改善の視点から健康の基礎研究、看護ケア・機器の開発、身体・メンタルヘルスへのアプローチ、エンドオブライフにおける意思決定まで幅広くあります。さらには、社会福祉行政・社会福祉政策・援助モデルや地域社会の構築の視点から、個人の持てる能力を最大限に引き出す（エンパワメント）を目指し、共生社会の実現に取り組む研究なども対象としています。

【教育目標】

- ① 健康から生活までの多様な課題を包括的に探究できる自律的・国際的な研究者を養成する。
- ② 基盤となる専門的知識・技術と高い見識を兼ね備え、地域にも貢献できる大学教員や行政担当者を養成する。

【養成する人材像】

- ① 高い倫理観と論理的思考力を持ち、Well-being の向上に寄与する研究を自立(自律)して行える看護（保健・医療）・社会福祉の専門職者
- ② 看護学・社会福祉学・健康基礎科学に精通し、高度な専門的知識・技術及び指導力をもつて質の高い教育が行なえる教育者
- ③ 看護（保健・医療）・社会福祉の現場において、課題を見出し、解決していくための研究指導や政策立案ができる指導者
- ④ 地域の健康生活課題を把握し、地域のニーズに合った保健・医療・社会福祉施策の進展に向けた研究の取り組みができる研究者